

教育部の経営方針の総括

1. 部の方針・重点課題の総括

●部の方針

- ・「子どもたちの生きる力の育成」を図るために、「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を基軸とした教育活動を推進し、児童生徒、保護者、地域に信頼される学校づくりを中心に取り組む。
- ・幼児期からの子育てが重要なことから「親の育児力の向上」「地域での子育て支援体制づくり」「子育て支援に関する情報提供」を重点施策に掲げ、中長期的な展望にたった事業の推進を図る。
- ・事業をより効果的に進めるためには、学校、家庭、地域の連携が必要であり、各施策の中に出来るだけ学校、家庭、地域の連携が図れるような方策を盛り込む。
- ・幼児期や学齢期からの学習活動などを礎に、生涯を通じて感性や創造力を培う施策にも取り組む。

●部の経営資源

【教育部】

- ・職員数（平成 23 年 3 月 31 日現在）
部長、理事 2 人 教育政策課 13 人 学校管理課 13 人 子ども課 10 人 図書課 9 人
教育部職員計 111 人（うち常勤・非常勤嘱託職員数 64 人）
職員比率（正規職員）11.0 %（教育部 47 人/市職員 427 人）
- ・決算額（平成 22 年度）
一般会計 4,351,504 千円

●部の重点課題

- ・小中一貫教育の導入拡大
小中一貫教育のこれまでの取り組み成果を踏まえ、市内全中学校区への導入拡大を推進する。
- ・子育て支援の充実
子育て支援センターを中心とした相談・交流事業を推進するとともに保・幼・小連携による幼児教育の充実を図る。また、家庭教育力・地域教育力の向上を図るとともに子どもの居場所づくりを推進する。
- ・小中学校施設整備の推進
厳しい財政状況下での、今後の教育活動への対応、地域活動や災害対応の拠点施設として引き続き計画的に整備する。

【総括】

「子どもたちの生きる力の育成」を図るために、小中一貫教育などを通して「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を基軸とした教育活動を推進し、児童生徒、保護者、地域に信頼される学校づくりに取り組んだ。

小中一貫教育の取り組みでは、中央中学校校区が研究指定校 2 年目として研究発表会を行った。また、河東中学校校区と自由ヶ丘中学校校区を新たに研究指定校とし、さらに、次年度に向けて城山中学校校区と玄海中学校校区を準備校として、新たな導入を図るとともに取り組みの拡大を行った。

小中学校の施設整備については、アスベスト撤去やトイレの改修、エレベーターの設置や体育館の耐震補強などを行い、安全で安心して利用できる施設整備を行った。

幼児教育と学校教育との連携・接続については、「保・幼統一要録」の活用や保・幼・小連絡会の開催により、情報の共有を行うことで強化することができた。また、PTAやコミュニティでの講座等の開催を推進し、家庭や地域の教育力向上に取り組むとともに、子どもの居場所づくり事業は、10 地区のコミュニティで本格開始し、事業の拡充を行った。

2. 部の目標の達成状況

(1) 多様な学習機会の創出

- ・ボランティアと連携を図りながら、ブックスタート、おはなし会などさまざまな事業を通して読書活動を推進するとともに、ホームページなどを活用した情報発信を積極的に行う。子どもや高齢者に配慮した環境づくりを行うため、須恵分館の整備を進める。また、外国語絵本の登録を行うことにより、外国の文化に親しむ環境を整備する。

【達成状況】

市民の生涯学習や読書活動を支援するため、講座や講演会、図書館まつり等さまざまな事業に取り組んだ。

ボランティアとの連携事業については、子ども向けおはなし会を 138 回（対前年度比 34 回増）実施し、のべ 3,591 人（同 1,109 人増）の参加があった。また、4 か月健診時に行うブックスタートを、養成したボランティアと連携を図りながら実施するなど、6 事業において、ボランティアの協力を得ることができた。

図書館からの情報発信については、市民図書館のホームページをリニューアルし、利用者への情報提供の充実を図った。

須恵分館の整備については、基本設計を行った。

また、外国語絵本 500 冊を登録し、貸出や企画展示を行うことで、市民が外国の文化に親しむ環境整備に努めた。

(2)子育て支援

・保・幼・小連絡会の充実及び平成 21 年度に作成した「保・幼統一要録」の活用により、小学校入学後の継続した連携、接続の強化を図り、保・幼・小の連携を推進する。また、子育て支援センターを中心に、子育てサロンや子育てサークル等と連携した地域に根ざした子育て支援事業の充実を図る。家庭・保育所・幼稚園・小学校がそれぞれの役割を認識し連携した取り組みを行うことにより総合的な幼児教育を推進する。

【達成状況】

平成 22 年度小学校入学児から「保・幼統一要録」を各小学校に送付した。統一要録の活用により、保育所・幼稚園から小学校入学後の連携・接続の強化を図った。

保・幼連絡会、保・幼・小連絡会及び幼児教育研究協議会等を開催し、宗像市幼児教育振興プログラムに基づく事業を実施するとともに、「幼児教育振興プログラムダイジェスト版」・「子育て・親育ち・家族育ちのための 11 の提言」・「就学に向けてのリーフレット」を園児の家庭に配布し、家庭・保育所・幼稚園・小学校がそれぞれの役割を認識した総合的な幼児教育の推進を図った。

子育て支援センターでの各種事業をはじめ、子ども支援ボランティア養成講座や子育てサロン連携会議などの開催により、地域に根ざした子育て支援事業の充実を図った。

(3)青少年の健全育成

- ・学校・家庭・地域の連携を強化するため、家庭教育力及び地域教育力の向上を図る。宗像市子どもの居場所づくり基本方針で示された提案に基づき、「人づくり」「情報の発信」「コミュニティとの協働」を柱とした事業を推進する。特に、コミュニティでの居場所づくり事業の拡充を図る。
- ・学童保育については、大きな変更があることから、指定管理事業が適正に運営されるよう指定管理者との密な連携を行う。併せて、保護者会・指定管理者・地域が連携した事業運営が実施されるよう、連絡協議会や指定管理者と保護者会との意見交換会等を開催する。

【達成状況】

学校・家庭・地域の連携と家庭教育力及び地域教育力の向上を図るため、幼稚園や小中学校 PTA、コミュニティ運営協議会での講座等の開設を支援し、128 回延べ 5,811 人の参加を得た。

子どもの居場所づくり事業については、10 地区のコミュニティ運営協議会で事業を実施した。

学童保育については、指定管理者との定例協議や職員による現地確認など指定管理事業が適正に運営されるよう留意した。また、保護者、学校、地域、指定管理者、行政が連携した事業運営が実施されるよう、意見交換会や情報交換会、保護者会長会を開催した。

(4)信頼される学校運営の推進

・子どもたちの生きる力の育成を図るために、「確かな学力の定着」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を基軸とした教育活動を推進し、児童生徒、保護者、地域に信頼される学校づくりに取り組む。そのために、「めあて」と「まとめ」・「交流」のある授業への改善を図るとともに道徳や特別活動で行うさまざまな体験・学習内容の充実、読書環境の整備や読書活動の推進、発達段階や個に応じた教育支援の充実を図る。また、学校・家庭・地域が連携した食育事業の展開、さらには学校施設の改修や改築等を計画的に進める。義務教育の段階の接続を円滑にするために、市内中学校へ小中一貫教育の導入の拡大を図る。

【達成状況】

小中一貫教育を推進することによって、市内全学校が「学びの基盤」としての学習規律や学び方の育成に努力し、昨年度よりも落ち着いた学習態度、集中して学習する学びの姿が一層見られるようになってきた。また、めあてとまとめのある学習を中学校区で工夫した学習の進め方によって定着を図ることができた。その結果、学習規律や学習態度の向上だけでなく、学力状況調査の結果が昨年度よりも向上し、小学校では、国語、算数に大きな伸びを示し、プラスに転じた。中学校でも前年度よりも大幅な伸びをみせ、国語、数学においては、県および全国平均よりも5ポイント以上のプラスとなった。また、小中一貫教育の取り組み状況を学校だより等で地域や家庭に知らせる活動や家庭学習や家庭生活のガイドを作成、配布することによって家庭・地域と学校が一体となって子どもの生きる力をつけることができるようになってきた。道徳や特別活動については、毎月の学校の日に授業公開することによって、よりよい学習になるよう改善が図られてきており、子どもたちの豊かな心を育む授業になってきている。読書活動については、読書タイムの設定や調べる活動に図書室の蔵書を利用するなどの工夫が見られる。また、図書貸借システムによって子どものニーズに応じた図書が提供できるようになった。

食育では、小学校において農業者による野菜の栽培指導や農業体験などに取り組み、学校施設においては、アスベスト撤去やトイレの改修などの環境整備やすべての人が学校施設を利用できるように、エレベーターの設置や体育館の耐震補強などを行い、安全で安心して利用できる施設整備を行った。

小中一貫教育の導入拡大では、日の里中学校区と大島中学校区が既に推進校として取り組みを進めていることに加え、中央中学校区が研究指定校二年目として研究発表会を行った。また、河東中学校区と自由ヶ丘中学校区を新たに研究指定校とし、さらに、次年度に向けて城山中学校区と玄海中学校区を準備校として、新たな導入を図るとともに取り組みの拡大を行った。